

# みんなの議会だより

題字：鮫川小学校  
6年 須藤 蒼天さん



## 3月定例会

### 一般会計予算その他を否決

- 定例会のあらまし…………… 2~4
- 一般質問に6議員登壇 …… 6~12
- 臨時議会 ……………… 13
- こども模擬議会 ……………… 14~17



3月  
定例会

# を議会がたたす

設特別会計予算を否決



関根政雄 村長

## 3月定例会の あらまし

3月定例会が3月10日から16日までの7日間の会期で開催されました。

第1日目に、一般質問を行い6名の議員が登壇し、公共施設等管理計画の具体的推進や、ICT教育の現状と対応、経営安定交付金事業の実施など、さらに、第3次新型コロナウイルス対策臨時交付金による、農業・農家への支援策、小中一貫校教育、行政改革など様々な問題を取り上げ、村政を質しました。

また、専決処分承認2件、鮫川村議会議員及び鮫川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例制定を含む条例9件、令和2年度補正予算10件、令和3年度予算10件、公の施設の指定管理者の指定4件、村有財産の無償貸付1件、

の提案理由の説明がありました。

第2日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会を開き、第3・4日目の合同現地調査及び議案調査と共に、議案を審議しました。

最終日に、審議した条例、補正予算、令和3年度予算、指定管理者の指定、村有財産の無償貸付を含む34議案中3議案否決、1議案取下げ30議案を原案どおり可決し、議員発議による鮫川村議会会議規則の一部を改正する規則、村長の専決処分の指定についての2件を可決し、請願1件を採択しました。

次に、議員発議による、意見書提出1件を日程に追加し、原案のとおり可決し、閉会しました。

# 介護保険条例の一部を改正する条例 介護保険料増額を否決

## 条例を制定しました

▼鮫川村議会議員及び鮫川村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例

公職選挙法の一部を改正する法律が令和2年6月12日に公布されたことを受け、立候補に係る環境の改善のため、村議会議員及び

村長の選挙に対する公費負担制度を導入するもの。

▼新型コロナウイルス感染症により生じた事態に対処するための職員の特殊勤務手当てに関する条例

職員が抗原検査等感染リ

スクにある厳しい勤務環境の中で平常時に想定されない業務に当たった場合に、新型コロナウイルス感染症に係る感染症防疫等作業手当として、特化した特殊勤務手当を創設するもの。

# 注目! 令和3年度予算・条例

## 一般会計予算、交流施

令和3年度予算一部を確定しました

会計別	3年度予算額	2年度予算額	伸び率	
一般会計	※1 -	31億9900万円	-	
特別会計	国保 事業勘定	4億2037万1千円	4億2350万円	△ 0.7
	国保 直診勘定	7050万円	7140万5千円	△ 1.3
	簡易水道事業	1億5421万円	1億2810万6千円	20.4
	村営バス事業	1110万円	900万円	23.3
	集落排水事業	3709万6千円	3222万3千円	15.1
	介護保険	※2 -	4億8683万3千円	-
	交流施設	※1 -	1760万円	-
	学校給食センター	1億34万円	1億34万円	0.0
	後期高齢者医療	3943万9千円	3964万5千円	△ 0.5



※1 賛成少数により否決

※2 介護保険条例の否決による議案の取下げ

### 条例の一部を改正しました

▼職員の仕事の宣誓に関する条例の一部を改正する条例  
職員の仕事の宣誓に関する政令に規定する様式に押印箇所がないことを受け、本村の様式から押印欄を削除するもの。また、「任命権者の面前において署名する」規定を政令改正案と本村の実情に合わせ、「任命権者に提出する」と改めるもの。

▼鮫川村村営住宅管理条例の一部を改正する条例  
民法の一部を改正する法律が4月1日から施行されていることを受け、文言を整理するもの。また、中学生以下の児童がいる世帯等の支援に関して改正を行うもの。

▼鮫川村国民健康保険条例の一部を改正する条例  
新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律が2月3日に公布されたことを受け、新型コロナウイルス感染症の定義を改正するもの。

▼鮫川村定住促進住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例  
民法の一部を改正する法律が4月1日から施行されていることを受け、文言を整理するもの。また、移住定住促進住宅3戸を加えるため改正するもの。

▼鮫川村道路占用料徴収条例の一部を改正する条例  
福島県道路占用料徴収条例の一部を改正する条例が4月1日から施行されていることを受け、道路占用料の額等の改正を行うもの。

▼鮫川村移住定住促進住宅の設置及び管理に関する条例を廃止する条例  
移住定住促進住宅3戸すべてを定住促進住宅へ加えることに伴い、条例を廃止するもの。

### 議員発議

一部を改正しました

鮫川村議会会議規則の一部を改正する議会議規則  
議員活動と家庭生活との両立支援策、活動しやすい環境整備など、議会への欠席事由を整備するとともに、出産については産前・産後の欠席期間を規定するもの。また、議会への請願手続きについて、押印の義務付けを見直し署名又は記名押印に改めるもの。

村長の専決処分の指定についての一部改正  
交通事故等による損害賠償における専決処分事項として、相手方への早急な補償の実施のため、損害賠償額の上限額を定め、議会の委任による専決処分の対象事項に追加するもの。





## 反対討論

前田 武久 議員

私は令和3年度議案第20号一般会計に計上されておる交流施設特別会計繰入金1千万円、並びに議案第27号交流施設特別会計予算に反対する立場から討論する。議会では廃業された民間旅館(旧つるや旅館)を村が買収したい旨、役割を果たし終えた交流施設ほつとはつすの閉鎖をするとの条件付きで、旅館取得費、改修費を含め1億円以内での財政支出を議決した。令和3年3月中旬新装旅館オープンと同時に交流施設を閉鎖、村からの切り離すとの再度の村長の確約は村民も十分承知している。村長が公約不履行すると言ふ事はそれを議決した我々議員に尊い権利を授けてくださった村民への裏切り行為であり、行政へのチェック機能、村長の監視役としての責務を果たさない。一般会計からの繰入金1千万円はほぼ例年と変わらぬ額。なくすと言つていた交流施設特別会計

1560万円はなくすどころか今後継続ありき独断専行の予算であり、承服できない。村民、議会を愚弄し無視するもの。

交流施設ほつとはつすには、村民のほとんどの方が不必要、疑問視している。交流施設運用開始から1億7600万円の建物への償還金を支払い、その他に問題視して来た運営費、何度となく経営改善を図ると村は弁明してきたが、平成10年から令和2年度までの24年間毎年赤字補填し財政難の中、貴重な村民の血税を3億5千万円以上投じてきた。交流施設の代わりと求めた旧つるや旅館の支出を加えると4億5千万円以上。現在、鮫川村はコロナ禍の最中、介護保険税の大幅な値上げや増税を余儀なくされており、生活困窮が予想される中、村民の方々の理解は得られない。村民重視の施策修正予算を組むべき。以上の理由により反対討論とする。

## 一目でわかる審議結果

【令和3年第1回議会定例会議事】

○=賛成 △=反対

議案	関根 浩治	森 隆之	遠藤 貴人	堀川 照夫	北條 利雄	関根 英也	前田 雅秀	前田 武久	宗田 雅之
介護保険条例の一部改正	△	○	○	△	○	△	△	△	△
令和2年度一般会計補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度交流施設補正予算	○	○	○	○	○	△	○	△	○
令和3年度一般会計予算	△	○	○	○	○	△	△	△	△
令和3年度交流施設特別会計予算	△	○	○	○	○	△	△	△	△

# 議案調査

# 提出議案を徹底調査!



真剣に議案を調査する委員会メンバー

## 道路改修工事に2000万円

令和3年度一般会計・特別会計及び令和2年度一般会計・特別会計補正予算を総務文教・産業厚生両常任委員会で合同調査しました。

## 総務文教常任委員会

- 問 賦課徴収事務費1200万円
- 答 税金延滞システム導入費用

問 移住定住促進事業費  
700万円

答 地域おこし協力隊給与・移住支援事業補助金

問 歴史民俗資料館費  
77万円

答 施設管理費

問 体育施設管理費  
1300万円

答 体育施設指定管理業務

問 語学指導事業費  
448万円

答 ALT(語学指導助手)の報酬等

## 産業厚生常任委員会

- 問 介護保険料条例の一部を改正する条例
- 答 基準月額保険料を5400円から6300円に変更

問 保険衛生費補助金  
42万円

答 新型コロナウイルス接種体制確保事業費

問 村道舗装修繕工事  
500万円

答 鉾木田・山田線舗装修繕工事費

問 道路改修工事  
2000万円

答 戸草、関口、岩野草、青少年広場道路工事費

問 伐採作業道作設業務  
900万円

答 広葉樹林再生事業費



修繕された鉾木田・山田線



大規模改修された青少年広場




リニューアルされた村宿泊施設「結び」



# 議員6人が登壇 **ズバリ!!** 村政を問う!


P 7



**北條 利雄**

- 公共施設等管理計画
- 未利用公有財産と借地
- 不要備品と資材

P10



**関根 英也**

- 農家支援策

P 8



**宗田 雅之**

- 人口減少
- ICT(情報通信技術)教育


P11



**遠藤 貴人**

- 新型コロナワクチン
- 小中一貫教育

P 9



**関根 浩治**

- 豪雨災害復旧
- 畜産クラスター事業

P12



**前田 武久**

- 交流施設  
ほっとはうす・さめがわ

議事の進行



**星 一彌** 議長

一般質問は、議員の日常活動を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。

出席議員



**前田 雅秀** 議員



**堀川 照夫** 議員



**森 隆之** 議員



北條 利雄 議員

## 問 公共施設等管理計画の 具体的推進を問う

## 答 計画的な維持管理や 長寿命化を図る

質問

未来の世代に責任を持つ視点の堅持、公共施設の個々の再配置を具体的に進め、公共施設等管理計画のもとに関連事業の予算計上、財政経営の観点を踏まえた管理経営を推進する必要がある。これらを推進するための、基本的な考え方と具体的な基準（ガイドライン）やマニュアルを定め、実務に関する留意事項等を整理し実行すべきである。これらへの対応を問う。

答弁(村長)

施設等総合管理計画の見直しに関わる措置がなされており、本計画の見直しについて、施設所管課との円滑な情報共有を進める。村の庁舎等個別施設計画を踏まえ、村が保有する公共施設の状況を総合的に把握して、計画的な維持管理や長寿命化を図る。財政負担の平準化や安心・安全で持続的な施設サービスの提供を目指す公共施設マネジメントを導入し、効率の良い公共施設の今後の計画を推進実施する。



役目を果たした旧母子健康センター

問 未利用公有財産と借地等の解消を問う

答 契約更新時に限らず、関係者との協議と打診を続ける

質問

未利用公有財産は村民共有の貴重な財産であることを踏まえ、処分にあたっては最大限の利益を財産の付託者である村民に還元するため、価値の最大化を図る必要がある。存続する公共施設の新設・増築・改築・大規模改修等に当たっては、施設整備方法や将来費用等を吟味し、最も効果的な手法を選択する必要がある。これら未利用公有財産と借地等の点検と解消、その考え方と具体的な対策を問う。

答弁(村長)

厳しい財政状況の中で、借地料の削減に取り組まなければならない。買収や交換、返還

等の手法があるが、公共施設の再編なしに実行することはできない。当面の縮減方法として借地の買収、借地料の見直しの取り組みは職員と共に交渉に臨む。未利用公有財産と借地等の解消を図る取組を進め、可能な限り借地の買収を基本にする。契約更新時に限らず、関係者との協議と打診を続ける。

答弁(村長)

時代の変化や技術の進化に伴い不要物品が発生することは確かである。機会を設け、不要物品等の確認と処分方法の検討を図る。施設や倉庫内外に保管し有事の際に使用する備品、資材等も整理整頓を常とし、早急な対応を可能とすべく適切な管理に努める。施設機能の維持が難しい状態のものもあり、現状の確認と保管物の計画的な移設と処分、老朽建築物の解体に向けた検討を進める。

問 不要備品(物品)と資材等の処分を問う

答 現状確認と処分方法、移設解体を計画的に進める

質問

各所や保管庫に眠り保管されている不要備品(物品)の見極めとチェックを行い、公売または処分を検討すべきである。たとえ少額であっても新たな財源確保も含め有効な利用手段を講じるべきである。

次のページは

一般質問

宗田雅之議員・関根浩治議員





宗田 雅之 議員

問

## 人口減少下における 地域の在り方を問う

答

## 既存の資源、資材を利用し、 課題の対策に取り組む



高齢者の生活を支える高齢者住宅

質問

人口減少をめぐる状況は年々深刻化し、身近な暮らしにも変化が確実に表れ始めている。高齢化に伴い防犯、防災、医療への不安、隣りの空洞化による共助の関係など、多様な問題が危惧される。現状を踏まえての集約化、拠点づくりなど地域の在り方を検討すべきでは。

答弁(村長)

人口減少対策は、村づくり全般に総合的な施策として取り組む重要な課題と認識している。庁内を横断的に組織し、実効性を図る考えの下、空き家対策庁舎内検討委員会を立ち上げ検討を重ねてきた。集約化、拠点づくりに関しては、住民が暮らす地域を守りながら移住することなくコンパクトな行政を実現化するための構想を進める。

再質問

集落が点在する中、独り暮らしの高齢者の増加や集落内での一軒家が増えると考ええる。こうした独り暮らしの高齢者を巡回して見守るなどの行政サービスを維持していくことは、労力的にも、コスト的にも大変な作業となる。また共助が保たれず孤独に陥るのではと危惧する。そのためにも拠点化を図るべきではないか。

答弁(村長)

現在、公営住宅の空き家が目立っており、これを高齢者が入居出来るよう規制緩和が出来ないか国、県に交渉中である。これにより公営住宅の空き家をなくし、高齢者に安い家賃で入居出来るよう計画している所である。

ICT(情報通信技術)教育の現状と対応を伺う

指導力の強化と情報モラルの指導を図る

質問

情報化社会の進展に伴い、ICTの活用は、次世代を担う子供たちの教育という観点から注目されている。指導する教員のスキル、知識によつては学校間の格差が大きく出る者と考える。現状教員の知識・能力は、また端末のチェックと管理、情報モラル教育も重要と思うが。

答弁(教育長)

タブレットを活用して授業を行ったことのある教員はごく僅かで、知識能力は深いものではないと思う。福島県全体を見ても、積極的にタブレットを導入して実践してきた学校は多くなく、有効に活用して授業を実践できるの

は一部の教員のみと推測している。この様な状況を鑑み、小・中学校に技術員を派遣し、教員の力量に応じた研修を計画している。またタブレットの使用については4月の各学校でのPTA総会で使用についての説明会を開催し、保護者に対して、家庭における利用の仕方や使用のルール等について丁寧の説明する予定である。





関根 浩治 議員

# 問 台風19号及び豪雨災害復旧と完了予定を問う

# 答 補助実績で、83.8%完了した

### 質問

台風19号とその後の豪雨災害での災害発生規模とその復旧状況について公共土木災害・農地災害の全体発生規模及び復旧工事進捗状況と今後の完了予定を問う。

### 答弁(村長)

公共土木災害復旧事業で、27箇所、決定金額3億9400万円、農地等施設災害が、74箇所、決定金額2億600万円となり、台風等降雨災害では過去最大級である。

### 再質問

最終工事発注予定事業については、3月5日に公共土木災害復旧工事3件、河川3件、農地等施設災害復旧工事3件、施設3ヶ所の契約完了をした。

### 再質問

農地等小規模災害復旧事業で、村8割受益者2割の助成復旧事業について問う。

### 答弁(村長)

最終実績件数が459件、総事業費768万1千697円で、村負担金額5367万9千円の補助金額。

## 問 コロナ禍での経営安定交付金事業を問う

稲作農家・畜産農家支援は、今後検討しながら進める

### 質問

経営安定交付金事業での次年度水稻栽培生産意欲向上策としての、飯米家救済と、令和3

### 再質問

年度飯米作付け面積緩和目標面積10ha減目標面積緩和対策と畜産農家への、持続化交付金支援策について問う。

### 答弁(村長)

主食用米生産農家支援金での助成であり、対象農家291戸の内273戸、1943万円を交付し、保留農家5戸、申請しない農家13戸、補助対象外農家51戸であり、今回の支援措置については国の助成を受けてないことを前提としたものである。次に畜産農家支援については、子牛価格や枝肉価格回復傾向により取引相場を見据えながら検討したい。水稻作付け緩和面積対策としては、飼料米への作付け誘導として推進する。

### 再質問

畜産農家支援として、2月から9月市場出荷牛に対応した給付金対策が他町村で実施したが、村での対策はあるか。

### 質問

子牛価格が回復傾向であるので、遡っての交付金事業の実施は無く、今後、大幅な価格下落等の発生時には、補填等を検討する。

### 再質問

畜産クラスター事業の令和3年度設立を問う

### 答

新年度設立実施する

### 質問

村の基幹産業である畜産事業で多様な制度メニューの取り組みができる畜産クラスターについて今年度の設立を問う。

### 答弁(村長)

本村の畜産農家の抱える課題や問題点の多くは、少子高齢化や後継者不足による経営継続していかれるかの事業継承の問題を踏まえ、事業の共同化や地域の担い手に円滑に継承できる環境作りや、長期

### 再質問

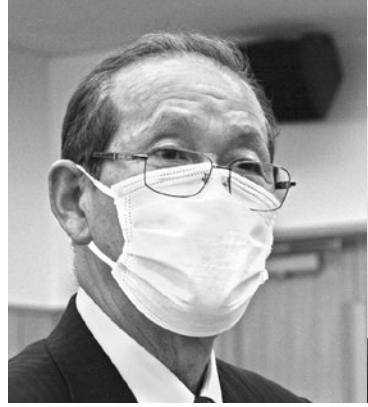
展望に立った畜産経営の問題解決に向け、畜産クラスター計画作成の検討時期と考え、畜産関係団体と連携し協議会の立ち上げについて準備を進める。

### 答弁(村長)

県内には、27の協議会の設立があり、本村の誇れる主産業となるもの。農協、関係団体の生産者と協議をして、協議会設立を新年度着手する。畜産業には、和牛繁殖・乳牛・養豚・養鶏等を含めたクラスター協議会設立に着手する。



公共土木災害復旧工事状況



関根 英也 議員

問

## 第3次コロナ対策臨時交付金 による農家支援策は

答

## 意欲的な農家に対し、 補助制度を新設し対応する

質問

先般、国において新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の第3次増額補正予算が成立をした。その中で、臨時交付金の活用が可能な農林水産業の事業例として、

次期作に必要な種苗購入等支援が挙げられている。本村の基幹産業は農林業であるが、最近農家の生産意欲が急激に低下し、耕作放棄地が目に見えて増えてきている。地域の活力低下が危惧される状況下にあることは間違いない。

一昨年の台風19号による農地等の被災、昨年から続くコロナ禍の影響さらに天候不順による農作物の減収が追い打ちをかけ、将来の不安から農業への諦め感も出始めている。村はこの間、二度にわたり交付されたコロナ対策臨時交付金による農業、農家支援策をほとんどしていない。村長は、昨年12月の定例会の質疑の中で提案さ

れた農業支援策については第3次交付金で対応すべく検討したいと答弁しているが、第3次臨時交付金による農業・農家への具体的な支援策について伺う。

答弁(村長)

全村民に対する支援として村民一人当たり1万円の商品券を2回にわたり交付した。農家をはじめとする経済支援を目的とした支援策である。12月の補正予算では新型コロナウイルス臨時交付金事業として、主食用米生産農家への米価下落に対する支援として10アール1万円、273農家に1943万円の交付決定をしている。営農の継続に意欲的な農家に対し、機械施設設備の補助制度も新設し対応している。補助上限30万円とした農業者への村独自の支援策である。現在当初予算より約700万円ほど足りなくなりコロナ交付金を使って本定例会に補正予算を計上した。

再質問

12月の定例会の質問で稲作ばかりでなく、畑作、野菜、畜産も併せて調査し支援策を検討すると答弁をしている。現在農家への支援は主食用米だけで残念に思っている。肉用牛

経営の収入は子牛の販売だけでなく、親牛も更新するため出荷をする、価格はコロナ前からすると半値位であり、大きな損害を受けている。石川町では畜産への支援として、親牛に対し、一律一頭5千円の支援をしている。機械購入支援としても補助上限が200万円である。村の農家に対し手厚い政策が必要と思われるが。

答弁(村長)

米価下落に対し10アール1万円、機械の購入として上限30万円は村独自の施策、東白管内には米価下落支援はない。和牛飼育には小野町や浅川町で一部支援した情報が入っていたが、石川町辺りの

支援策の情報は不足であった。実態がわからないと手が打てない。今後農業を支える担い手の方々と話をして実態に合わせた施策を講じていく。

再質問

野菜農家支援については村の学校給食センターでは地場産品を使っている。栽培をお願いされている農家の方も子ども達に安全・安心な野菜を提供するため努力している。一か月も学校が休みになって農家の人には何もない。学校給食用牛乳には国から補償がされているが。

答弁(村長)

野菜の出荷関係で調べたのが、手まめ館の出荷量だ。前年度比として野菜農家のコロナ禍に対し、収入は大きく変わっていないと判断している。学校給食の休校日に対しての話を聞き気が付いた。間違いなく臨時休校、今年

度は当初もあった。野菜農家がコロナ影響とどのよう因果があったのか調査し、収入減があれば補填について検討する。

再質問

今後若い人たちも農業に挑戦する意欲を湧かすためにもポストコロナを迎えるの鮫川村の農業施策の村長の考えを伺う。

答弁(村長)

担い手の育成は欠かせない。新規就農者の支援事業も県の事業にあるが現在やられている先輩方との継承、もうかる農業を何とか構築できないか後継者にお嫁さんが来て農業経営を軸として家庭を持つていただくことが村の大きな目標だ。国、県の有利な補助金も活用しながら、村独自の施策とかみ合わせ農工商連携も含め推進していく。





遠藤 貴人 議員

## 問 ワクチン接種体制は構築されているか

## 答 前例のないプロジェクトに取り組んでいる

### 質問

国の新型コロナウイルス感染症収束に向けてのロードマップでは、緊急事態宣言で沈静化しない場合、厳しい状況が継続するであろうと予想されている。不確定要素を抱えながら臨機応変に対応していくことは困難であるが、ワクチン接種体制は、どのように構築されているか。

### 答弁(村長)

ワクチン接種は集団接種を考えている。65歳以上の高齢者に対する接種を優先に準備を進めている状況であり、接種予約受付は4月中旬予定。接種開始は5月の連休明けとなる。

### 再質問

日本国内では、過去の薬害に対する扇情的な報道などの影響で、

### 答弁(村長)

ワクチンを受けるか否かは本人の意思。私個人としては率先して、ワクチンを受ける覚悟がある。

ワクチンに対する懐疑的な感情が根強い。副反応の不安を和らげる意味でも、行政運営に携わる我々や首長が、ワクチン接種することは村民へのメッセージになるのでは。

### 答弁(教育長)

本村の今後の教育は、小・中学校という義務教育の在り方について根本から考えていかなければならない時期に来ており、施設の一体化は村の財政を考えると経済的。

### 答弁(教育長)

校長をはじめとした管理職が取組の意義を分かりやすく伝え、役割分担を見直すことで負担軽減していきたい。校務に関しては、統合型校務支援システムを次年度から導入して、事務の軽減を図りたい。さらに、教科担任制を導入することによって、教材研究も効果的に行えるようになり、教職員の多忙化を減らすものになると感じている。

### 再質問

保護者や児童に、小中一貫教育への理解が進んでいるか。

### 答弁(教育長)

PTA総会等を利用して、保護者や児童に小中一貫教育の目的を説明していきたい。

### 質問

小中一貫教育では能力や個性を把握して、特性に応じたフォローがしやすいことが利点とされているが、人間関係や相互評価が固定化されてしまうのでは

### 再質問

村内6つの小学校が、1つの小学校に統合されたことを第1段階とすれば、小中一貫教育を目指すことは第2段

接種体制の構築が進む新型コロナワクチン



次のページは

一般質問

前田武久議員・臨時議会



前田 武久 議員

## 問 交流施設予算は公約違反

## 答 運営を継続する



閉鎖した交流施設

### 質問

行政改革について職員少数精鋭主義の具体策を示せ。

### 答弁(村長)

組織機構の見直し。

### 再質問

村民への対応、近親感へのネームカード提示の徹底をすべき。

### 答弁(村長)

カードの提示、名刺の差し出しを徹底する。

### 質問

借地料471万解消への交渉努力されたか。

### 答弁(村長)

これから全戸自分で足を運び粘り強く交渉する。

### 質問

財政負担、利活用されない、公有財産処分方法をたずねる。

### 答弁(村長)

固有財産の処分方法を各課に於て検討する。

### 再質問

不要物件となつている、越虫住宅の動向は。

### 答弁(村長)

ホームページで売却の旨公開している。

### 質問

指定管理6施設への、財政支出の見直しを。

### 答弁(村長)

村からの持ち出し最高額が、社会福祉協議会、手・まめ・館運営協議会等、見直しが必要。

### 再質問

早急の見直し各施設の統一した、振興公社の設立、法人化を図るべき。

### 答弁(村長)

今、法人化に向け、環境公社準備室を立上げ検討している。

### 質問

交流施設3月中旬閉鎖、村からの切離しの約束、村民に対し何度も確約済みである村長答弁の内容承知と思うが如何か。

### 答弁(村長)

閉鎖、村からの切離し、譲渡等で公開したと答弁している。

### 再質問

新年度予算に一般会計1000万、なくすと言っていた特別会計に1560万上程されているが。

### 答弁(村長)

旧つるや、令和2年12月21日改修工事の工期遅れから当分の間、

### 再質問

交流施設を継続したいため、予算計上した。

村民にうそをつく予算は認める事出来ないが。

### 答弁(村長)

議会の意見、議決を戴く。



# 臨時 議会

3月議会定例会では賛成少数で否決した介護保険条例の一部を改正する条例、令和3年度一般会計予算が臨時議会で可決しました。

また、否決されていた交流施設特別会計予算は交流施設特別会計条例を廃止する上程がされ、こちらも可決しました。

## 介護保険条例の一部を改正する条例 令和3年度一般会計予算その他を 可決



議案への質疑が相次いだ臨時議会

### 一目でわかる審議結果

【令和3年第2回議会臨時会議事】

○=賛成 △=反対

議案	関根 浩治	森 隆之	遠藤 貴人	堀川 照夫	北條 利雄	関根 英也	前田 雅秀	前田 武久	宗田 雅之
介護保険条例の一部改正	○	△	○	○	△	○	○	○	○
交流施設特別会計条例の廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度介護保険特別会計予算	○	△	○	○	△	○	○	○	○

# で **村** づくりを **提言**



## 強く求める!

### 1番議員

- ・ 矢吹 颯
- ・ 佐川 祐斗
- ・ 北條 弥
- ・ 森 姫那
- ・ 高木 綾

#### 質問

農業人口は減っているが、増やすためにどのような取り組みをしているか。

#### 答弁 村長

米の価格が下がった時の補てん、農業機械購入の補助、冬季間の野菜栽培へのビニールハウス支援など、厳しい条件の鮫川村でも安定した農業経営ができるように農家の皆さんを応援している。

#### 再質問

工場を増やしたり、工業を発展させたりする取り組みをしているか。

#### 答弁 村長

現在、工場進出の問い合わせはないが、あらゆる情報を収集して「鮫川村に見合った産業」に来ていただきたい。また、村内企業へは「定期的な訪問」を行い、「ふるさと納

税」による企業支援などのお願いと情報交換をしている。

#### 再質問

林業は発展していけるか。何か取り組んでいけることはないか。

#### 答弁 村長

村としての取り組みは、「森林再生事業」による搬出道の整備や間伐、「森林環境譲与税」の活用、航空レーザーによる樹種や樹木の量を調べるなど、今後の林業振興につながるよう取り組んでいる。

#### 再質問

伐採の際に出た枝を発電等に活用できないか。

#### 答弁 村長

森林伐採の枝葉や切り株は、すでに「木質バイオマス発電」や「火力発電」の燃料として発電事業に利用されている。しかし、残材の全てが搬出されていないのが現状。それは残材を搬出するためにかかるお金のバランスによるもの。

#### 再質問

食材の保管場所を作っても、いつでもおいしい食材を販売できるようにしてはどうか。

#### 答弁 村長

穀物(米・豆・エゴマなどは)は保存ができるが、野菜などは鮮度が落ちると、捨てることとなる。「食材のムダ」をなくすために「冷凍保存」「乾燥保存」「加工保存」などが思い当たる。食材を「無駄なく保存」するシステムができればと考えている。

### 2番議員

- ・ 森 あいら
- ・ 鈴木 千絢
- ・ 水戸 愛來
- ・ 矢吹 天響
- ・ 石井 蒼大
- ・ 山形 蓮

#### 質問

広報誌で、鮫川小と鮫川中が小中一貫校になることを知った。小中一貫にする目的やメリットは。



# 書面による 通告

## 第8回 鮫川村こども模擬議会



# 将来を見据え

答弁 教育長

鮫川小学校と鮫川中学校では「連携教育プラン」に基づいて連携し、学習指導や生徒指導などで大きな成果を上げてきた。これまでの連携をさらに強め、学校や地域全体で9年間一貫した教育活動が行われるようにするため。また、小学校でも理科や英語、音楽などを中学校の専門の先生に教えてもらうことが可能になる。

再質問

学校教育におけるコロナウイルス感染症予防対策について、どのような取り組みをしているか。

答弁 教育長

文部科学省の指示に基づき、マスクの着用、手指の消毒と、登校前の体温測定。消毒用アルコールを各学校に配付し、空気清浄機の設置や自動水栓への取り換え、発熱者の対応のための保健室のベッドなどを整備した。

再質問

図書館や図書室で、さ

らにたくさんの本を読めるようにしていただきたい。

答弁 教育長

今年は65万円以上のお金を準備し、計画的に多くの本を購入している。昨年度は、物語や図鑑など合計158冊、約23万円分の新しい本を購入し、今年度も150冊分の予算を確保している。今後、読書の推進を図るため、小中学校の図書室の本を、村の図書館で一括して管理できる仕組みを検討したい。

再質問

校舎内の古くなっている部分は改善できないか。

答弁 教育長

平成21年12月に、体育館も含めた耐震補強改修工事を実施。教室内などは安全上、特に問題はない状態。教育委員会では、学校からの要望に基づき、限られた予算内で優先順位をつけて毎年必要な修繕を行い、安心して学校生活が送れるよう努めていく。

質問

観光客を増やすため、どのような取り組みをしているか。

答弁 村長

鮫川村の観光地をホームページなどで公開し、観光客を増やすこととしている。「鹿角平観光牧場」や「ほっとはうす・さめがわ」において、キャンペーンが増えている。今後も鮫川村の自然を「観光資源」として売り込み、大勢の観光客が訪れるために、村の魅力を発信していきたい。

再質問

コロナウイルス感染が拡大し、観光客は減っていると思う。観光の面で、コロナ対策はしているか。

### 3番議員

- 水野 穂乃香
- 小林 幸恵
- 齋藤 幸恵
- 武藤 瑠那
- 江田 紗羽

答弁 村長

「手まめ館」「さざり荘」「ほつとはうす・さめがわ」では、マスクの着用、検温、密を防ぐ、換気、消毒を実施している。施設によつては来場者制限や名前と連絡先の記入、営業時間の短縮、休業をお願いして感染リスクを軽減した時期もあった。

再質問

館山公園にアスレチックの遊具を作ること、子ども連れの観光客が増えるのではないか。

答弁 村長

「館山」の活用と「手まめ館」の充実は、今後の大きな課題。多くの子供たちを含む村民、観光客に喜んでいただく「児童公園」の整備も必要。今後、「公園計画を皆んなで考える会」を開催する。

再質問

自然を活かしたイベントはあるか。鹿角平観光牧場で、そりすべり大会を開催してはどうか。

答弁 村長

「鮫川でのヤマメつり大会」「鹿角平観光牧場で「天体観望会」や「車やバイクでのラリー」「自転車競技」「野外コンサートや結婚パーティー」などが開催されてきた。大きな傾斜を利用しての「そりすべり大会」などは冬季のイベントとして面白いアイデア。皆さんが実行委員で、広報できれば世界に広がるイベントになる。

**4番議員**

- 目黒 豪心
- 矢吹 水翔
- 根本 歩夢
- 藤田 美悠
- 渡辺 美悠

質問

人目のつかない山奥にゴミが捨ててあるが、ポイ捨て対策はしているか。

答弁 村長

各地区に「不法投棄監視委員」がいて、常に監視

答弁 村長

をしている。また、定期的に村内を巡回して道路脇のゴミや不法投棄物の回収を行っている。まずは「捨てないこと」そして「捨てる人を増やすこと」みんなでゴミのない「美しい鮫川村」を守るべき。

再質問

鮫川村では、どこでもタバコを吸っているように思うが、喫煙所をさらに設置する予定はあるか。

答弁 村長

村では庁舎外に一箇所、公民館の建物外に一箇所、農業者トレーニングセンターの屋外に一箇所、喫煙場所を設けている。公共施設及び公共交通機関が禁煙となつているので、喫煙所を増やす考えはない。喫煙者は喫煙場所を判断し、吸い殻は処理するというマナーを守るべき。

再質問

田畑の害獣対策を個人で行っているが、村での対策はしているか。

答弁 村長

耕地などへの侵入防止として「電気柵」などの購入費用への助成金、イノシシ捕獲への助成金、箱罟の貸し出し、鳥獣被害対策実施隊への支援、狩猟免許取得への支援、猟犬の治療費補助などをおこなっている。今後は意欲ある若い方々に猟銃や狩猟免許をとっていただくことが必要。

再質問

森林伐採が進むと村の森林が減少する。森林を守ることに林業を両立させるためには、どうしていくべきか。

答弁 村長

スギやヒノキなどの人工林は植林（人が植え付け）したものであり、主に建築用材への活用を目的としている。落葉紅葉樹はシイタケの原木、木炭、薪などに活用。スギやヒノキなどの伐採後は、新たに苗を植林しなくては再生できないが、落葉広葉樹はまた株から芽が出て、森を再生できる特徴がある。林業と森林を

答弁 村長

守るためには、これらの特徴を把握し、森林づくりの計画をたてる必要がある。

再質問

森林を伐採する際に出る、必要な量以外の木材を施設や設備に活用できないか。

答弁 村長

学校のイスやテーブル、家具や遊具なども考えられる。それ以外であれば燃料として薪やペレットの原料、有機たい肥にも活用できる。

答弁 村長

路線バスは乗車率（乗る人の割合）が低くなっているために、運賃収入より運行経費（バスを運行するためのお金）がかかるため、それらの経費を村が負担している状況。このような状況から、路線バスを増やすことは考えてない。村では診療所への交通手段確保として「患者送迎車」は運行。今後は、利用したいときに運行する「デマンドタクシー」や民間団体が運転を代行するシステムの導入などを検討して、増え続ける高齢者の交通手段の確保に努めていく。

再質問

お年寄りや車椅子の方がバスへ乗り降りしやすいように、バス停の位置を高くしてバスとの段差を無くしたり、スロープを付けたりしてはどうか。

答弁 村長

あおぞら号ではスロープ台を積み込み、支援が必要なお客様には乗務員が随時対応している。バ



ス停の改良については、バス停は村の土地ではなく道路の歩道に置かれているものがほとんどであるため、残念ながら改良は難しいと考えている。

**再質問**  
土砂崩れがあった場所の工事は進んでいるか。

**答弁** 村長  
道路や河川などの災害復旧工事、農地等の災害復旧工事は64か所。工事の進み具合は約70%ぐらい完了しているが、各現場とも約束した期日(工事を終了する日)に向けて、工事を進めているところ。

**再質問**  
道路に大きな鏡を増やしたり、注意を呼びかけける掲示板を増やしたりしてはどうか。危険なカーブで、車が来ていたら赤く光り、来ていなくなったら青く光るような機械は無いか。

**答弁** 村長  
「カーブミラー」の設置は管理者(福島県や鮫川

村)の判断や、関係団体・地域の方の要望によって設置してきたが、通学している時など、「ここにカーブミラーがあれば安全」という箇所があれば教えて欲しい。次に「車輛接近センサー付きカーブミラー」だが、交通安全設備の改善案として、素晴らしいアイデア。調査し、交通安全関係機関に伝えてみる。

**再質問**  
地面に雪が積もっても自動的に暖かくなつて雪が溶けるような機械を設置してはどうか。

**答弁** 村長  
「暖かくなり雪が溶ける機械」(ロードヒーティング)の設置だが、灯油やガスなどを熱源とする温水式と、電気を熱源とする電気式がある。いずれの機械を設置するにしても、多額の設置費用と維持費が必要となる。村にあるお金も限られていて設置できないのが現状。

**再質問**  
鮫川村に鉄道が作られることは無いか。

**答弁** 村長  
鉄道を作るためには「国の許可」が必要なことから、鉄道整備は難しいと思われる。

**再質問**  
鹿角平観光牧場や強滝など、観光名所への道のりを表す看板を増やしてはどうか。

**答弁** 村長  
村内には「観光案内板」が設置されているが、案内板の内容が変わっていたり、古くなって文字が見えにくい看板もある。これらの状況を調査し、来年度から計画的に観光案内板を作りかえる予定。

**6番議員**

・森田 朱音	・岡部 賢吾
・金澤 琴海	・蛭田 真歩
・芳賀 康大	

**質問**  
「鮫川村地域げんき商品券」を、村外の地域に配ることで、村内の飲食店の活性化につながるのでは。

**答弁** 村長  
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、生活に困っている国民を救うため「コロナ対策臨時交付金」が国から村へ渡された。このお金を活用したのが「鮫川村地域げんき商品券」。この制度は鮫川村独自の制度なので、村外の方に配ることはしない。(他町村でも同じような制度を制定している)

**再質問**  
村内飲食店に、コロナウイルス感染対策を呼びかけているか。

**答弁** 村長  
新型コロナウイルス感染症

染対策に対して、回覧板や広報紙、防災無線、村のホームページで何度も「注意とお願ひ」を、呼び掛けている。村内飲食店の感染対策の指導については「福島県南保健福祉事務所」から、接客上の感染予防策などが示されている。

**再質問**  
商品PRのため、村の食材を使った特産品や料理を作り、テレビで放送してもらえないようにできないか。

**答弁** 村長  
鮫川村では他町村に負けない「安全でおいしい食材や加工品」がある。「天狗橋」や「取上石」などの奇石も、まだ大きく取り上げられてない。特産品や観光地のほかに、これらの珍しく話題性のある「珍情報」を発信していく。

**再質問**  
現在「ウーバーイーツ」が都市部で流行っているが、鮫川村でも高齢者のために宅配のシステムを

現在「ウーバーイーツ」が都市部で流行っているが、鮫川村でも高齢者のために宅配のシステムを

さらに活用できないか。

**答弁** 村長  
鮫川村では高齢者等の「買い物弱者支援事業」としてスタートしたのが「村民の店すまいる」の宅配事業。村内の鮮魚店や八百屋による「移動販売」でも、買い物に行けない多くの高齢者が助けられている。都市部のように「バイクや自転車での料理を宅配できる」「ウーバーイーツ」も工夫さえすればできるかもしれない。

**再質問**  
小学生が村のパンフレットを作り、村外に設置してもらえないか。

**答弁** 村長  
小学生が村のパンフレットを作り、村外に設置してもらえないか。

**答弁** 村長  
鮫川村では「強く生き抜く力」「村の伝統や仕事の仕組みを理解する力」「鮫川村を大好きになる郷土愛」をはぐくむために「鮫川村ふるさとキャリア教育」に力を入れている。「自慢できる鮫川村」の良さを発信し、それを全国に発信する。力を合わせて「自慢できる鮫川村」を作りたい。

力を合わせて「自慢できる鮫川村」を作りたい。

# ふるさと鮫川への想い シリーズ③



寺門 妙子 さん(旧姓:我妻)  
埼玉県在住(西山字落合出身)

## ◆プロフィール

- ・生年月日 1976年(昭和51年)11月10日生まれ
- ・1989年(昭和64年) 西山小学校卒業
- ・1992年(平成4年) 鮫川中学校卒業
- ・1995年(平成7年) 学校法人石川高等学校(現 学校法人石川義塾) 特別進学過程 卒業
- ・1998年(平成10年) 埼玉県浦和市立高等看護学院 (現 さいたま市立高等看護学院) 卒業
- ・2017年(平成29年) 日本看護協会 認定看護師教育課程 集中ケア認定看護師取得
- ・現 在 埼玉県内の病院勤務

## 遠い日の思い出

高校を卒業して、鮫川村を離れ、埼玉に住んで25年以上になります。人生の半分以上を今の土地で過ごしていますが、故郷の景色、空気、においを忘れたことはありません。生まれ育った鮫川村での思い出はたくさんありますが、いくつか私の脳裏に焼き付いている思い出があります。小学生の頃は、祖母とともに畑の土手でイナゴをペットボト

ルいっぱい取って歩きました。イナゴが草むらからピヨコンと出てくる姿を夢に見るほど夢中になりました。中学時代は、暑い夏にヘルメットをかぶり、長坂の急な登り坂を汗だくになりながら自転車を押して部活に通っていました。高校の帰り、日が暮れるのが早くなると、街灯のない真つ暗な道を、「木の陰から熊でも出てくるのでは」と、恐怖を感じながら足早に家を目指して歩いたことを思い出します。

鮫川村を離れ、埼玉に家族を持った後も事あるごとに鮫川に帰ることが楽しみでした。その楽しみが簡単に叶わないものになったのは、10年前の東日本大震災、福島第一原発の事故による影響で放射能の恐怖にさらされた時でした。数か月後、久しぶりに帰った鮫川は今までと変わらず、緑と光にあふれていて、目にまぶしい新緑の季節を迎えて

いましたが、目に見えない放射能に不安を感じずにはいられません。そして、今度は、また目に見えない敵、新型コロナウイルスにより鮫川に帰ることができなくなりました。

鮫川のまだ肌寒くて桜が咲かない春も、見渡す限り緑が深い夏も、歩くたびにたくさんの道に落ちた紅葉が鳴る秋も、深々と降る雪のきれいな冬も、もう1年以上感じることができていません。自然豊かな鮫川に大手を振って帰れる日が来るのが唯一の楽しみです。

また、地元で活躍する級友たちの話を風の噂で



現在埼玉県の病院で医療の最前線にて日々奮闘中!

聞くと、うれしくも誇らしくもあります。自分も鮫川に生まれ、育ったことを誇りに思い、今も離れた土地で医療を守るために日々精進していきたいと思っています。これからも鮫川村が変わらず自然豊かで、ますます発展されることをお祈り申し上げます。

## 編集後記

春の暖かい日差しが感じられる季節となってきましたが、コロナウイルスは依然として収束する気配が感じられない様子です。

村としても高齢者のワクチン接種を急いでいる状況の中、夏のオリンピック開催や感染症対策を十分に行了ったうえでイベントの開催が出来ると思われず。

一日も早く、笑い声があふれていた鮫川村に戻るように村民の皆さん共に頑張りましょう。

(広報編集委員)